

「案内、何にもないんですね。」と。まさにしかり。

型のごとく、ピアノ、オルガン、大型中型の積木、ままごと道具、お人形、縫いぐるみの動物数匹、画架、粘土入れ、それらが九十坪の建物の中に散在しているだけで、園内はひっそりとしている。創立後歳浅く、備品の多くは望まれないし、伝統がかもし出す魅力あるふん囲気をつくるにも至っていない。その参観時が子どもたちの下園後であればなおさら、貧弱感を持たれるのは当然であろう。

しかし、園舎をめぐる数多い檜の立木に目をとめられたであろうか。一気に芽吹く頃の胸にせまるあの香を何と表現しよう。新葉の緑がしずくとなっていたり落ちるようで、葉の重なり合った梢を、ふっと仰ぐと深い緑に吸いこまれそうになる。檜の生命の強さが、私たち子どもたちの胸をゆさぶり、生活への活素を与えてくれる。園庭で最高潮に遊ぶのもこの時である。遊び疲れて、樹かげで憩っている時M子が、

「先生、もう、夜よ。夜になって羽が露にぬれてとべなくなつたの。」といい出す。子守唄のメロディを口ずさんでやると、檜の木にびったり頬をくっつけて眠るポーズを皆がとる。不思議なことに、自分まで遊び疲れた蝶のような幻想にとらわれて、いつしか子どもたちに身を寄せているのだった。芽吹きは魔性である。

付属高校から運動会の練習のマーチが流れてくる頃は、一陣の秋風にも、どんぐりが、ポタリ、ポタリ落ちる。子どもたちの心の中にも、ポタリ、ポタリどんぐりがおちていく。そして、いろいろなイメージが湧き出て詩が生れる。劇ができる。

あおい あおい そら

風が ふいてるよ。

ぼろり どんぐりがおちた。

こおろぎが ころころ にげてった。

あおい あおい そら

風が ふいてるよ。

(家政大学付属幼稚園)

狭い園の保育

秋田好枝

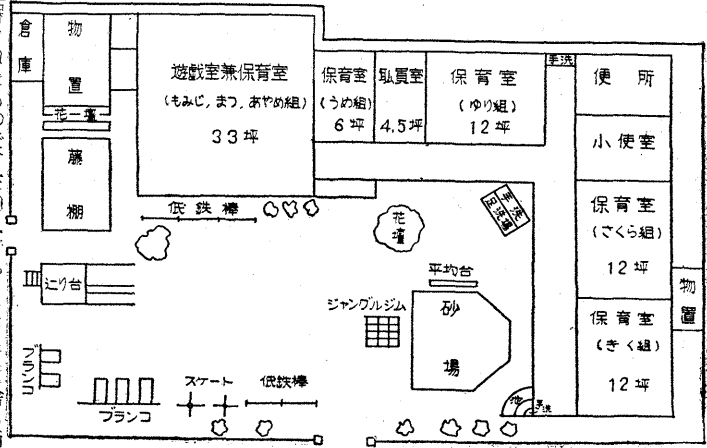
「環境をいかに生かして保育するか」という課題について、本園の環境と、保育の実際について、述べて見ましょう。

一、幼児の家庭の環境について

岡山市の北西部にあり、田、畑、山ありの静かな住宅地である。岡山大学、清心女子大学などの学校施設や、池田産業動物園、国立病院、旧練兵場などがあり、幼児の家庭環境としては、自然に恵まれ、理想的です。

近時、旧練兵場の一部が、公務員住宅になったり、田畑が一般住宅にかわり、人口が増加してきています。

二、本園における幼児の環境について



確保されたもので、三〇八坪あります。園舎も当時の建設で、一二七坪、運動場、一六〇坪その他が二二坪です。本年度より、旧練兵場の一隅に約一千坪の土地を建設用地として、確保され、運動場として使用しています。本園の平面図は右の通りです。

住宅の激増のため、幼児数は、本年度、全国的に減少を示しているにもかかわらず、本園には何ら影響もなく、現在二六四名（一年保育のみ）の多数です。

職員は、園長（専任）一名、教諭五名、助教諭二名、用務員一名です。組数は七組編成としており、敷地は、昭和二年住宅の少ない頃に

運動遊具は図面以外に、シーソー二個、太鼓橋一基があり、保育室の遊具は大型箱積木一組、小型箱積木三組、床上積木五組、ままごと道具各々一組、人形三六個、絵本、ゲーム遊びなどで、教具としてピアノ一台、オルガン五台、電蓄四個、ラジオ二個、幻灯機一台、リズム楽器一揃、紙芝居六九組。飼育動物は、猿、狸、鶏、兎、小鳥、亀などであります。以上が幼児の環境であります。

三、狭い環境の保育について

(1)本園の環境の欠陥について

前述のような環境に多くの幼児を収容しているために、幼児全体に落着きがなく、常にいらいらしており、遊びが活動的でなく、静的になりやすく、また戸外生活において、園児が満足して楽しむことができないのです。思う存分飛びまわって遊ぶことができない。消極的な幼児は、運動具で遊べず、遊具の数をふやすことは、幼児の活動をますますはばむのでできません。

戸外遊びを奨励することは無理であります。多人数を収容している組の幼児は、注意力が散漫となり落着きがなくなり、狭い保育室の幼児は消極的になりやすいのです。

手洗などの設備が少ないため、時間がかかり、ブランクな時間が多くなる。部屋の移動を絶えず行うために、継続した遊びができません。

(2)障害を除去する配慮

(a)以上の欠陥は、幼児の身体にも、精神にも発達を阻害しています。ここに私も教師の工夫がなされ、少しでも除去する配慮がなされなければならないと思います。

まず、多くの幼児が遊びに没頭できるような環境をつくらなければなりません。遊戯室に大型箱積木を設備したり、各保育室に小型箱積木を備え、多くのグループで遊べるようにしており、またままた道具を充実し、幼児の遊べる場を、園内に多くつくってあります。また戸外生活を楽しむように、順番に遊具を代り合って使用するように指導し、一人でも多く欲求を満足させるように気を配ったり、広い場に連れ出して、思う存分走りまわって遊ばせています。自由遊びにおける指導と保育計画に豊富な経験をさせるように考慮しています。

また保育室を使用する場合には、遊戯室の三組の幼児を全員一組に保育することは、教師の指導も困難であるから、他の部屋へ各々一組ずつ移動し、落着いた環境の中で保育しています。部屋にはいる時間をずらして、他は戸外遊びを充分させるとか、園外保育に新園地などへ出掛けたあとのあいた部屋に入るとか、自由遊びの時にワークの時をもち、他の組のはいつている時に戸外遊びを経験させるとか、保育室の机を全部出して、リズム遊びをするとか、園庭にござを持ち出して、木陰でお話をきいたり、紙芝居を見たり、戸外で製作をしたりします。またお弁当日を設定し、半数を午前中、半数を午後までとし、午後の一時を施設を使用して充分遊ばせるようにしています。

遊戯室やら、狭い部屋の欠陥のあるのをそのまま一年間、同じ部屋にとどまらせることには、種々問題があるので、保護者に説明して、毎学期、全園児の部屋の交換を行っています。

(6) 保育の計画について

以上の環境に対する配慮をどのように、日々の保育の実際に行っ

ているかについて、のべてみましょう。まず毎日の保育がスムーズに行われるように、職員相互が部屋の交換などについて話し合い、一週間の計画をたてておきます。当日の幼児の遊びの状態を観察し、交換する部屋は適宜、教師の連絡により実施しています。狭い施設をフルに使い、幼児の経験が偏しないように、幼児の欲求もある程度みとられるように教師が苦心して互に連絡しながら保育しているのです。

四、結び

以上まとまりのないことをのべましたが、狭い環境において、幼児の経験を豊かにし、望ましい方向に、心身の発達を促進することは、困難であると思いますが、教師が真に幼児を愛し、教育目的をはっきり把握し、教育に対する熱と、教師相互の和と、創意工夫がなされれば、必ず克服していけるのではないかと思っております。環境が人格形成を左右すると思えます時、私はいたたまれないような焦燥感に、たびたびおそわれます。

本園の環境は、幼児にとって、誠に気の毒なことと思いますが、前に述べましたように、家庭環境は実に広々として、幼児にとって、理想的でありますので、せめてもの仕合せと思っております。また市当局の方々が、本園の現状に思いを至され、新園地を確保してくださいましたが、一日も早く新園舎が建設せられ、幼児たちが幸福な生活をする事ができるのも、余り遠くはないと思っております。

私自身も、大きな希望をもち、胸をふくらませておるのであります。(岡山市立伊島幼稚園々長)